

## 風の民は、幻に生きよ

まことに 万軍の主はこう言われる  
 わたしは 間もなくもう一度天と地を 海と陸地を揺り動かす  
 諸国の民をことごとく揺り動かし 諸国のすべての民の財宝をもたらし  
 この神殿を栄光で満たすと 万軍の主は言われる  
 銀はわたしのもの 金もわたしのものと 万軍の主は言われる  
 この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさると 万軍の主は言われる  
 この場所に わたしは平和を与えると 万軍の主は言われる

(ハガイ 2:6-9 新共同)

この言葉は、バビロニアによって崩壊したユダの国、その預言者ハガイに臨んだものですが、終わりの時、地球の救済を祈るわたしたちにも言われているメッセージだと思えます。

以前にも同じことばが与えられていましたが、昨年12月3日、風の教会が立礎式を迎えた時点で、主は改めてこの約束に立てと言われている。私は、そう信じます。

「もう一度天と地を 海と陸地を揺り動かす」というのが、予想されている大地震、物理的なことなのか、それとも霊的精神的なことなのかわかりませんが、私は、主なる神が今の時、再びこのことばをわたしたちに与えられるなら、それは主の贖いがさらに明確に現れるためであると信じていますから、パニックしない。

世界は震われるが、「諸国のすべての民の財宝をもたらし、この神殿を栄光で満たす」と、主なる神は言われる。この世の財宝がわたしたちの懐にザクザク入ってくるなら結構な話ですが、でもこの言い方、少々えげつない、かなり自己中心に聞こえますね。しかし、それは神の願いよりも、人の肉を考慮しているからです。

キリストの贖いの愛がいかに深いものか、少しでも理解するなら、誤解の余地はないのです。贖いとは、一番深い意味で、「在ますのは御神と、その御神を想う私のおもいだけ」の世界。いのちのいちばん深いところに身を置くなら、相対的な見方は消え、御神の絶対の愛の感動があるのみ。絶対とは、神と私の間にはいかなるものも介入できない世界なのですから。

「私は子羊に来て、はじめて神の愛がわかった」などということばを聞いて、「まあ、子羊が一番なんてとんでもない」と批判する者もいますが、前者が体験したキリストの贖いの深さを批判する人には見えていない。まだ相対の世界にあぐらをかいている、肉の見方しかできないからです。

だから私は、人々の誤解と嘲笑は百も承知のうえで、敢えて「風の教会は、主の特別な愛を具現するもの、全き贖いの現れ」と公言してきました。私は、風の教会にこそが現れている主の絶対の愛を見たからです。それは、幼子イエスにまみえた老預言者シメオンの感動なのです。

シメオンは幼な子を腕に抱き 神をほめたたえて言った

主よ 今こそ あなたはみ言葉のとおり  
 この僕を安らかに去らせてくださいます  
 わたしの目が今あなたの救を見たのですから  
 この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので  
 異邦人を照す啓示の光 み民イスラエルの栄光であります (ルカ 2:28-32)

風の教会は、いままで見えなかった救いがはっきりと形をとって現れ、見える救いとなるもの。一人が風の教会の意味を悟れば、その人を通してキリストの救いは多くのものに流れてゆく。この救いは万民のためであり、異邦人を照らす啓示の光なのですから。地球の救いは、風の教会にかかっている。

たしかにわたしたちの地球は、危ない。日々、地球の最後が近づいている。今年は、北京オリンピックがあるそうで、中国をはじめ日本などでも大はしゃぎしていますが、地球温暖化の影はオリンピックを飲み尽くすでしょう。温暖化のため、北京だけでも深刻な水不足で、共産党は軍力で農民を追い立てダムを造る。でも追いつかない。指導者は、自国のプライドのために、理性をなくし良心を放棄した。地球を滅ぼすほどの危機が、もうそこまで来ているというのに。

富に頼るものは、富に滅ぶ。力に頼るものは、力で滅ぶ。

2008年、これは、地球の運命を決する年となる。私は、主にある確信をもって、宣言します。さんびの民が、主のあわれみによって地球の崩壊を遅らせ、天のいやしを地に祈り続けるか。ならば、終末の時代にも、チャンスはあるでしょう。しかし、天のビジョンを忘れるなら、地の崩壊が来る。

幻がなければ民は墮落する

教えを守る者は幸いである

(箴言 29:18 新共同)

この「<sup>ビジョン</sup>幻」とは、天のさんびに託された主の啓示です。これがなければ、民は墮落し、いや地球そのものが崩壊する。しかし、「教えを守る者」、この警告に耳を傾ける者は、幸いなるかな。かれらは、神の子と言われるでしょう。天から流れてくるいやしの管となるからです。

風の教会は、主の新しい神殿。これは、至聖所であると、主が言われる。これは、天と地の接点。そして、主はさらに、「この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさる」と言われる。エルサレムに建てられたソロモンの神殿は絢爛豪華なものでしたが、芦屋に姿を現す風の教会はシンプルで美しい。規模もうんと小さいものですが、昔の神殿にまさると言われるのは、この小さな教会を通して、今度は地球全部のいやしを祈るところとされるからでしょう。

同じビジョンを見る者は、幸いなるかな。そして、主の願いを守る者は、幸いである。

風の民は、幻に生きよ。

2008年1月1日

ピーター